

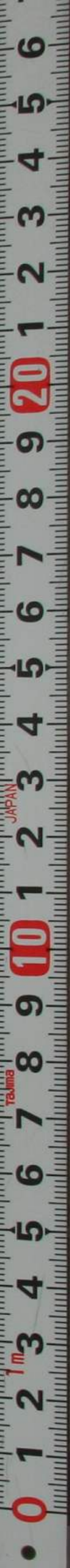


関ヶ原軍記

三編九五

七六

へ遠13
2207
43



門へ遠13
番2207
巻49



関ヶ原軍記二篇巻之廿五

目録

- 一 福鴻正則三井寺に強訴の事
くぬ ちのり さいでろ かつそ
- 一 并 秀忠卿 福鴻の討平と頼の事
ひら へいしゅん ちゆうこう の うちらひ
- 一 伊奈備前守 福島の際へ入る事
いなえ びぜんしゆ ふくしま の せき へ いる
- 一 忠光の事
ちゆうかう

本之收據品成成なる事

世世彈重書

國々書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

書

并正則怒りと解て三井寺に出仕の事

池清



岡ヶ原軍記三篇卷之廿五

福崎正則三井寺強訴の事

并秀忠白福崎の討人状

頼りし事

曰く福崎左衛門尉正則も元来

常獲乃大おこしありも志はあり

内府公事封なり

孫子

先頭薩長より北有園ヶ原の軍
切平よりく安藤の備後乃直
城居り被圍り入城以後惣業
あり其後も実素一わん良し
て秀頼上洛の旨も借奉此人殺
す入城せしり曾別して大坂
御陣の旨も江戸の旨も居り
子の節
内府公の鑑

有中より左御一代も其修平は
是れ元和六年より起りて福清家
の功徳なり及びり

評曰く福清正則が後所と
別して清和ありも好くあり
実物の起りの件も後所より
写しありし所も其ありし
福島車一秋平此者も大勢

さねしるる色は懐くも在る
ありさうの世に

家康公が此一生涯の此言質
決断しある時を何するに
も下より推へく中へる変
わし懐くひあり又破るひ此疑
後平の意推りせんゆとも押
解ら推ぬる事よそを中へ

内用ひ那く兵手強くして
鉄石乃如く物なりうらうら
其愛あるまわく御初年
れり時より強河の國なり
御成長有る此言物さひく
乃石乃鐵手御入あつて
のり強なり乃石が三河乃
子憐れなる腕果たりその一

能くくく 西麓下有之 以林
みくく 入りて なる 年
唐以後く 天神合戦の時
この乃石甲州 ごとく 筑城
成 生捕 せ 成り たる 時
神君の孫として 汝ら三河の
子孫 たる 腕果 たる 遠東
國は 桑々 たる あり して 切後

此 何れなる 時 室の
云 禁軍 たる 子孫 たる 井伴
武政の 力 たる 伴
より 終 又 兵 後 大 志 たる
云 糧 入 たる 御 退 口 たる
以 たる 強 たる 大 山 たる 如
く 武 骨 たる 手 強 たる 一 たる 哉
立 たる 向 たる 気 勢 たる あり たる

三別古呂針時依時を擧る
え来酒井雅樂上宮もそ
変改のお席仕換へたる
ゆゑ酒井忠孝誠お手に取り
一擧能う朕手御運乃安危
よりさうく言さる及も酒井が
誠度々作せらるく能く
清利運平あるより又甲斐

の國乃武田信玄より
らひ中よとりの大意
終り乃古太閤天下決意
是の時織田信雄より
玉ひ長久手小牧の戦ひ
清利尾花の國越平け
ゆひく信雄誠歸しあり又
そ後大坂よりねあ大名百三

十人一統

家康公の小人教は御免
居申す時十七ヶ条の題
決中らるとりて
千少くも固窮拮据
まして情と法通
此の心入も眼あ
くくその心とまら
まら

あれを後略正刻
新法も御
る句編る
さる肉の沙汰
書付と
表立
又正則
東照宮の
討
ありて
跡

明く老麻^{らま}^ら併^ひし^の
福^{ふく}嶋^{じま}が音^ね質^{しつ}る^る随^ま分^{ぶん}能^{のう}大^{だい}巧^{こう}
や^やい^いん^んども一^{いつ}つ^つく^く
を^を免^{めん}弱^{じやく}ま^まと^と殺^{ころ}り^んの^の音^ね性^{せい}
あ^あつ^つく^く種^{しゆ}骨^{こつ}杖^{じやう}あり^り弓^{きう}
矢^やを^をて^てい^いら^らぬ^ぬて^て大^{だい}荒^{あらい}
の^の又^{また}不^ふ敵^{てき}の^の恒^{けい}率^{そつ}も^もい^いら^らぬ^ぬ
を^をい^いら^らぬ^ぬに^に福^{ふく}嶋^{じま}杖^{じやう}を^を恒^{けい}

年^{ねん}立^たて^て親^{おや}を^をい^いら^らぬ^ぬも^も
深^{ふか}き^きあり^り福^{ふく}嶋^{じま}杖^{じやう}を^をい^いら^らぬ^ぬ
い^いら^らぬ^ぬ有^あり^りも^もい^いら^らぬ^ぬ
圓^{えん}ヶ^ヶ京^{きやう}御^ご陣^{じん}の^の麻^ま合^あ津^つ袋^{ふくろ}
向^{むか}ひ^ひの^の徳^{とく}大^{だい}名^な三^{さん}拾^{じゆ}三^{さん}人^{にん}あり^り
は^は人^{にん}と^とい^いは^は書^かき^きあ^あり^り皆^{みな}大^{だい}板^{ばん}あり^り
あり^りて^てそ^その^の身^みを^を合^あ津^つ袋^{ふくろ}に^に結^{むす}
あり^りその^{その}時^{とき}に^に評^{へい}定^{てい}を^を徳^{とく}人^{にん}

のあつはつ一決其心うんこ色
二愛れおろく人王とて
所色既去人あり遠愛ある
ふ於てい忽ちあがるべとの所
子福鴻左衛門右衛門を書く
をみ出く其一の
内府公の御手と引や
中いれ其一言をいそぐ

くかりて丈夫千奴り大軍
清先へ出陣はくれまの正刻
が右長るりの時くころ
を射見ころの時
徳川家此御敵とて前より
上杉佐竹あり又大板の城
より逆意の標凜とる石田三
成ありさんばあ奴り敵

ちまふぬれに羅敷のありさ
を見るに忠び貞正剛を
味方と取りしを
福きと脚くられ
これ毒の中より
大なる身は喜なり
能くお噂も
帝の人よとも不斗

口濁してお打うら
眼より見く
ともおて出その先
この人とお手に
すわ人の情
事ありこれ毒の中
多あり中
我田是利あり

貞を引の弱きと救ふの
理ありてこれ人ありつらあり
あはれ性者頼朝 義経は事の
わくしつと却のどくくあり
況んや所子 徳とる時を
いひてたのどくく志する
時をいふは後大坂の秀頼は
いふまじつまたる時叔大坂

追討するん時又弱きを
助くるれをありて自然
あつてむきよなり色逆ん
よもあはれ又由縁といふ
いふ事ありてこれ正則
は事ありて車に娘は身
の上は必承とも引絶はるれ
指えあり

去ほごう千福崎左邊のちま正
刈り山料の陸千刈りてそ
る刈りきごう額りりして
此度の子物り七旬り破らひ
あつがれきんばとてこの修り
長至又子千刈りて作事後前
地りりけり封りてを
とんご二井寺一強作よ及ぶ

そ便者より大崎吉藪ありそ
比ふの額ありさても此度俵
刑部少輔事洛中へ出の部
作事後前を理不そ此程藉致
一乗一此子の老有附あ打教
さん山桑心外の起りあり破らひ
甲乙人を改め山とも福崎正
刈りが俵りりぬそ一礼もや

なまのそらう心ぬごる仕方
よてんあの人を侍高儀あま
ちを正則平下されぬ人
存意と晴るし中夜は以
海のふき葉一更あましく
良をつつしやべまよては力
ふのちお叶のまんを判刑部
か憚る切後仕せ正則級

弓矢をまきて言野山事のがり
中まぐましくぬと思ひ切る
強行の仕方候りもあまなり
がんせりの新く整日色し下
之交り存も志まうりに
これある指しとお願
内府公卿機嫌をん下福山
ゆりまづら此軍切平あり

乞取さしそまみて迎取人を
るげぬの中条ことそは是迄
疑治支依く正則大の千怒り
そのふるそ飛千あよを治そ
衆人千の老老一万余人
出立して山料を引取
山越へ千治田の浦まで引取
ふのとそあ千陣營越うぬて

幕とあせし定めて
肉府公より討入来りそあり
そ飛のあ吉のこの時千取り去
おぐそ史をそも及を治唯朝三
條の橋をあつちて作を備
前寺越生捕刑飛しく直ちに
三井寺へあけは後略なり
つくりし根その一矢射へ

ありとそこの用を報ぐ之

内府公出車とあり、臣取子の御
ある正刻が仕方進ん一擧乃族
同指ありとて御懐よりついで
ねんぼりの時

秀忠の御取ひ有し、此の
實ヶ原乃御一取、御取ひ
ごんまの御取ひ、御取ひ

このうび、この討手

秀忠、作舟の

御取ひ、御取ひ、御取ひ

この取、内府公の

今、今日、天下、御取ひ、御取ひ

増田の大軍有り又西へは鴨津
城をとり敵を角とるべく
之を奪ひ上杉を討つて
支虎の勢ひ有り又石田小西
安直を去る長曾我部之類
もこれ小敵有り之を討つ
も知色ざるに今福嶋が敵を
討つべしと慮りてのつくり
は

増進は去る一はねば又龜沼の
うちも是れ敵を討つ有り
増進は去る一はねば又龜沼の
うちも是れ敵を討つ有り
増進は去る一はねば又龜沼の
うちも是れ敵を討つ有り

何事有る 福嶋の陣中
来るは去る 支虎の
并正刻怒りと解て三井寺(お社の夏)

信宗福嶋左衛門太夫と云ふすく
いよごごりつゝくくくくくくく
又私世子ぬんくもきりり
危うなる時節なり

信宗信前より一書ふ二命と
君一人なり忠意仕ゆより邦
以て是るくいよごごりり
内府公より大切の以て来其

上 公勢と云ふんトはぬぬ
御承りしはたぐされくく
さふゆの先本書は通り大款
國々も充満して意を重む
時よゆゆゆも程々ゆゆ
る信宗書が大志哉
芳しむきくくく信宗氏
去十七才未満よても百代

不易 實業此郡代中より
右後前より先井作重政
が智孫の西條玄三 惣使
おきり 徳守平均の基ひと

いぬきり

此時作重後前より福一母が
孫作のおもむきとつゝは笑面々
く大いなりねあるま我一人の

物ものししせせありありけけささびびののああららりりの
るる皆皆秋秋ののりり 台たりり車車籠籠
ままららりりちちらら頃頃 公こうのの西せいののああ
よよああららぶぶるる車車之之ここららひひ今いま福
崎さきがが竹たけ根ねりりねねががひひりりささととも
目めねねとと福ふく嶋じま森もり一一海うみささららるる夏なつ
いい武ぶ門もんのの定さだ地ちととららててるるるるべべりり
ららんん又また左さ指さしるるららににおおああるるくくをを

取^もり大^お乱^{らん}と及^{およ}ぶ^ぶる^る戸^こ
湖^うに^に雲^うヶ^が原^{はら}沖^{おき}一^{いっ}紙^し勝^{せつ}利^りの^の
取^とり^り福^{ふく}と^とぬ^ぬが^が乱^{らん}を^をる^る所^{しよ}
これ^{これ}款^{くわん}を^を替^から^られ^れ理^りを^をり^り鬼^{おに}角^{かく}
今^{いま}の^の秋^{あき}の^のち^ちと^と替^かへ^へ
肉^{にく}屋^や公^{こう}の^の肉^{にく}為^ゐに^に福^{ふく}嶋^{じま}に^に一^{いっ}生^{せい}
瀧^{たに}老^{らう}七^{しち}門^{もん}と^と取^とり^りさ^さ次^じべ^べ一^{いっ}と^とて
一^{いっ}紙^しに^に書^かき^きて^て別^{べつ}ち^ち子^しの^の

態^{たい}病^{びやう}と^とお^お後^ご一^{いっ}子^し細^{さい}と^とこ^こ
井^いさ^さの^の沖^{おき}本^{ほん}陣^{じん}一^{いっ}巻^{まき}と^とら^らそ^そて
その^{その}巻^{まき}中^{ちゆう}の^の記^き望^{ぼう}回^{かい}の^の福^{ふく}嶋^{じま}
が^が陣^{じん}と^と切^きり^り吉^{きち}村^{むら}又^{また}志^し巻^{まき}つ^つと^と射^{しゃ}
面^{めん}と^とて^てり^りと^とら^らい^いこの^{この}紙^し我^{われ}お^おが
衆^{しゆう}人^{にん}を^を福^{ふく}嶋^{じま}刑^{けい}部^ぶ及^{およ}ぶ^ぶの^の修^{しゆ}方^{ほう}と
口^{くち}福^{ふく}せ^せと^とら^らい^い由^{よし}と^と人^{にん}正^{せい}刑^{けい}及^{およ}ぶ^ぶより
それ^{それ}が^が一^{いっ}と^と中^{ちゆう}と^とら^らい^いと^とら^らい^いの^の紙^し

依よりく
内府公うちうらぎの
名な一ひと百ひゃく
を此度このたび福崎ふくさき來きたれ御書ごがきを忠誠ちゅうせい
莫なかるり終はつに正則せいそくの由願よしぞんひ叶な
いざら時ときはそ暇ひま者むじやうなりおのび
又私またわたくしを留とどめられ利りあり仍なほて葉は
の福崎ふくさき及およびの陳ちん白はく切き換か所ところは
存ぞんじむ子こをそりて
とらふり依よりあさころ色いろまがく
依よりけ

何公なにこう中ちゆうより今いまの恨うらみみを晴はら
しめんと申まをすものごとく
暇ひま十じゅう文ぶん書しよに換か切きく免めんしより
このよりと福崎ふくさき時とき大だいひり
をら三さん井せい寺じの方かたと拜まが礼れいを
お
左さ程ほどよりある名なと存ぞんじ
以も款くわん封ふうを成なさんとせし
以も拜まが礼れい

ふ徳^{ちか}有り入^いりりこのふのふ正^{せい}刻
か心^{こころ}危^{あや}も跡^{あと}さうとさるるふ打
多^{おほ}く吉^{きち}村^{むら}大^{だい}崎^{さき}下^{した}思^{おぼ}尾^お宮^{みや}お
の骨^{ほね}長^{なが}四^よ入^い事^{こと}とるをく
三^{さん}井^{せい}寺^じへ参^{まゐ}り礼^{らい}

御^ご目^め見^み之^のヤ^やらる
先^ま遣^{つか}く後^ご前^{ぜん}書^{しよ}が書^かき
佛^{ぶつ}流^{りゅう}のそとらこのうびれ次^{つぎ}身^み

内^{うち}府^ふ公^{こう}さ

御^ご儀^ぎ細^{こま}なりを也^{なり}も御^ご一^{いつ}
思^{おも}ひ正^{せい}ありとくを伴^{ばん}事^{こと}が思^{おも}
免^{めん}りありと故^{ゆゑ}くまふと云^いふ
まのひくまふと云^いふと云^いふ
免^{めん}さやめありその後^ご正^{せい}刻^{こく}も
別^{べつ}んちうくも心^{こころ}願^{ねん}あり礼^{らい}り
り也^{なり} 神^{かみ}君^{きみ}内^{うち}心^{こころ}を以^{もつ}機^き
娘^{むすめ}り叶^かりんも中^{ちゆう}必^{かならず}也^{なり}

取の大方より有るもの
を終る御造をよりして
家内終一々条此の替り
又後前より
内府公より使す名
少くはたると又内
心そのさそく
作事といひ甲斐
ありのあり
とらひ福徳と
紀の者何人
解

と中せむとて
信代乃家士
人子替んや又
後あちが二条
の橋とちるに
新にあらん
予下知こ
そ下知代作
事あがちる
するに下人
乃郭め
育ありそ
ちるよ
より
くは備も
ある地
柳も
秋後
る
ゆる
くそ
所と
於
ゆ
家
康
が
解
先
代

純くすらの如童のどく紀膏
此欠ころ嘗よりして武つ代理
殊よりあり志よりして左大臣
ありしつとして御式をお遠るく
終りりそれよりせんくし取
とて有るく嫡子態飛を景出と
改名させぬし二万石を以加増之
志よりしお役大久保石見守其

安長十八年一死其生後
石見守が私欲を断てし
の御毒細 上りて
嫡子及十席次嘗との子刑飛
せしころの時代御書お役と
して之程の事と程便よりする
事同飛よりして左大臣の忠良
よりしつくし御 御免あり

たしきり 百ふられーが又々
懐教入千懐給りり本知二百石
より改易と成りりりり其後
ありても付四家今々之懸業
あり

油漬

関ヶ原軍記二篇巻の亦み給
油漬

油漬

関ヶ原軍記三編巻之廿六

目録

- 一 福嶋正則行状悪逆の事
- 一 并 神君所送状御明智神
- 一 并 通じらる事
- 一 并 安藤の廣嶋の 御上使の事
- 一 并 福嶋家断絶の事

油清

同ヶ原軍記三編卷之廿六

福徳正則の行状かみでい愚あ送きやの事

并な大神かみ表ひらの所ところ達た状じやう以も明あ智ち

神かみ之の通と出でるる事こと

去き程ほど行ゆ福徳ふくとく左ひだり邊へののちち又また正ただ則なり

かかのの度たにに強つよ行ゆ事こと志ますす中なにに法はふ
小こ色いろくくるるとと取とりり神かみ楯たてにに及およびびん

とすらしりて 去る来

内府公上對 ありての先陣番略

ありて 兵作 佐佐木 宗茂 氏に ありて 見

深し 終りて 兵作 佐佐木 宗茂 氏に ありて 見

切て 自殺 成りて ありて ありて ありて

内府公は 忠告 ありて ありて ありて

抑ん ぎら 事 ありて ありて ありて ありて

お依り 乱 治 ありて ありて ありて ありて

支州 六拾 九万 石 越 福 鴻 正 則

終りて ありて ありて ありて ありて ありて

二十 一万 石 也 ありて ありて ありて ありて

大 船 ありて ありて ありて ありて ありて

内 府 公 ありて ありて ありて ありて ありて

ひ ぐ 入 船 ありて ありて ありて ありて ありて

も 大 ありて ありて ありて ありて ありて

正 則 ありて ありて ありて ありて ありて

さる斗りて手討ぬ法の
刑罷お不法子万あり悪人故
と勿論ありさる人千私曲
無きやん 荒車斗りて列
く倭奸の音味ねしとつた
そ悪逆といふ多子のうび入船
のせり 瀬戸内を私を執り時
大風吹来りるるんぞん

て大ひ千りりあわさつた昔
風波のゆるるを飛り及ぶ
皆的私を扱り多んに私取を呼
くこの風をいふとお尋ね
ふ地嵐とやそ風ありと音あ
正刻笑く大きき怒り日ん
入船の地嵐といふる不吉あり
とて大身此種とて串刺よう

ぬさふか此處より立上らば
あはれ悔後あまの者ども端々
ふり大まき事忍れく安事心も
あうりけり又或時江戸おのへ
敵と云ふ後後の國の表と
敵と云ふに邦の大急流より
敵と云ふ表を軍くくして後略
うより敵とのあつていぬ敷流

正則是城以ての外に憤り後
後の國朝の事人出度出合
やどの者た六人をとらびおと
るるのあつてと積守子と云
ふ事毎々意く出らる願主の
中守ら事となるて用ひむし
くをよ一の能事表と出さ事
不届事子万ありとてこらぐ

く刺殺キリコロをもつらひの乃なほあま女にの娘むすめ
決裂さいれつして凡まづより又またを刑せい罪人ざいじん決けつ
りつりつに形かたちありありとも悪逆あくぎやく
をとるはケ程ほどの人ひとといふ武略ぶりやくの
ころろがけの海うみをたやうりさ
衆人しゆじんを執とり衆中しゆちゆうに徳士とくし等らを
これ唐たうととる抱かかへ置おけりその
めんくすの福嶋ふくしま伯智はくち同どうく

丹波たんぱ大崎おほさき玄蕃げんぱん尾園おしぞの石見いしみ吉きち
村むら又また衣え染ぞめの長なが尾お年とし人ひと不ふ思し不ふ飛ひ
大橋おほはし衣え染ぞめの廣ひろ瀬せ市いち太た夫ふ等ら
染ぞめ等らと始はじめめとて一いち尾お竟さう老らう者もの也なり
有あて民備たみび度た重ちゆう也なり是こゝ一いち段だん神かみ妙まうの
ゆ也なり孝けい長ちやう十六じゅうろく年ねん秀ひで頼より公こう上かう洛らく
の時とき如ごと及およ清きよ正せい池い田でん輝てる政せい淡たん井せい
幸あき長ちやう三さん羽う也なり福ふく嶋しま正せい刻くわくと大おほ坂さか

より正則の心慮を頼むるの如く秀頼
の借手立の心慮を頼むるの如く
内府公は款封するも同おこととて
病卒と稱して若くは出合と
家康公これに依りて福嶋
の心慮を頼むるの如く
頼むるの生盤より

予は殊に之を頼むるの如く
頼むるの心慮を頼むるの如く
予は死後より頼むるの如く
物有りその心慮を頼むるの如く
安長十九年秀頼送徳に依りて
御進發の時
内府公若くは
内府公より福嶋より頼むるの如く

殊^く意^いる^る一^一海^{かい}り^りと^とい^いく^く者^{もの}え^え来^{きた}の^の
幸^{さい}質^{しつ}事^じ弱^{じやく}き^きと^と殺^{ころ}り^りん^んと^とす^する^る此^{こゝ}男^{おとこ}
氣^きあ^あり^りさ^され^れば^ば付^つ福^{ふく}鴻^{こう}正^{せい}則^{すなは}ち^ち并^{なら}び^びお
加^か度^ど嘉^か明^{めい} 黒^{くろ}田^{でん}吉^{きち}政^{せい}お^おの^の三^{さん}人^{にん}
江^え片^ぺ之^の丸^{まる}の^の首^{くび}を^を指^さと^と中^{ちゆう}身^{しん}せ^せ
と^とて^て手^て通^{つう}り^り 仰^{おほ}せ^せお^おり^り
又^{また}御^ご本^{ほん}丸^{まる}を^を上^{かみ}総^{そう}を^を介^{かい}度^ど法^{ほふ}信^{しん}代^{だい}
危^{あや}し^しい^いる^る者^{もの}指^さ肉^{にく}度^どの^の面^{めん}を^をと^と

仰^{おほ}せ^せら^らる^るは^はい^いり^り 大^{おほ}坂^{さか}の^のい^いつ^つき^き
法^{ほふ}務^む利^りる^るは^は此^{こゝ}時^{とき}を^を本^{ほん}城^{じやう}り^りら^らび^び
寄^よせ^せ判^{はん}教^{きやう}し^しカ^かベ^べー^ーと^とい^いふ^ふ
御^ご内^{ない}を^をこ^こし^し御^ご進^{しん}發^{はつ}也^や安^{やす}未^みは^は如^{ごと}く^く
子^この^の人^{ひと}を^を在^ある^るは^は法^{ほふ}款^{くわん}對^{たい}を^をと^とま^ま
み^みを^を在^ある^るは^は江^え片^ぺ丸^{まる}を^を取^とり^りて^て致^{いた}す^す
方^{かた}を^をと^とり^り 御^ご城^{じやう}肉^{にく}を^をと^とり^り合^あ
お^お話^わり^りし^しる^るは^は大^{おほ}旨^{しづめ}鴨^鴨也^や今^{いま}福^{ふく}

の致しひら木村 後及能働きて
孫利を討つりときりらと
打きて大い平悦び彼等の良
士存佐作 上校とも致軍せし
より天晴城中 吉来より悦
び至る大野おが致軍あぐんく
和曲舞をせり 佐らて降須賀
擇多ヶ渡と云ふ 扱と時

と大まきあつりて 我おり博内
千のりるば園東勢あり 是のこあ
させまのぞまののこと大いひり
旬りし由委細千言しせし人
あり悦んども大坂落城以後其
後千をれころも又子細あり度
あり 東惣美天下此の仕舞
城の仕舞 ちうく 御在也

御隠居の内侍又有てその
あつては子こくくは仕
格つてんやまのそつ
東照文の清心庵を志す
有難き思ふ入る 予
草創のりあり候く教殿の
御きも又百端を知りし急
軍功あり意として所存言振よ

ある若未ご孫に是れより又
徳士徳におよ討とわつるの
予一代の供に働かざるもの
あれは又其人一生涯に
最もら時を漢の志願
頼朝のよう子孫傳く
御きは 家康がごとく
く所存言する天下と名あつた

予死後を必しん 將軍職の
威光程く如く法より是る之
貴も形るるるふまの
家康が恩や名を必し身爲
— されば井作 及堂おの
予死後より 將軍家
尾張 常陸もこれなり

將軍家よりこれに
及しと皆元和六年に有る
事の如く 御造也
されたる元和二年
家康公薨御方よりこの
ごん 御造言の
ごん 以仕事お海申に福
正則の中も必しん

漫後より秋修して海へ出
さる事有りたんに目への
者の死に失くす時を福壽
おりの修をいふ所を
ケ修くして改絶さるべき
あり 予が一生のうちに源切
ふ修するのあらむ又く是次
なき事なり

將軍表此時よりいりるばり
福海田中おとす修くよせ
とてねんごうなり
しとてあつ果してえ和六年
藤利廣海に撤書修を廣太
して修景跋記りたりは尋
危利者も今天下安泰一統の
せり別して書修さる及びる

ゆりありと 公也 延保の妙法
よ及んたりは 良後時大ひり
強訴有る人 もるげるる部ひ
よして 尚時福時が 居城の 善徳を
是尚ら久ま 備れる 尚也
よ我軍功の 貴中 清より
又當来と 對して 彼乞るる紀
筆ありとて 止すの 久ま けり

交りあり 叔とそとを 時の 何の
ゆりも 云くくくく 此まの 記善徳
よとて 湯眼 下さる
以て 秀忠公
東恩 氣極る 所 遣状 決出 強ん有
福時 来り 絶の 次 貴と 以合 善
有る
名と 威と あり へえ 和あり

八月の是中酒井澄政さねまさの古井
大崎おほさき路安藤やすふじ對馬たしま寺阿部あべ豊とよ
塔た寺てら牧野まきのを後のち寺てらとをどめ
とて福壽ふくじゆ寺てらの中なかに法ほふ會かい成じやう
極ごくんん尖せんのの人ひと
赤あか思おも又また乃の御ご造ぞう狀じやうをを仰おほしりり依よりり
のの一いち身み上じやうのの總そう正しやう一いち
のの法ほふおお後のちありりままのの左ひだり後のち一人ひとり

魁角くわいかくと中ちゆうくら人ひととそありり
り

安藤やすふじの廣ひろ壽じゆ一いち使し入い来らいの

并な福ふく壽じゆ寺てら新あらた法ほふのの寺てら

時ときりり幸さい多た上じやう野の分ぶんをを出いて
福ふく壽じゆ寺てらのの後のちありりとも

御進言と申す中なるがごとく正則侯
實々原以来在廊の者として不
あしき事なき事蹟にして荒
のえ来乃生質あり此度撤
のゆい我あらはしく中へ
よてん条田功の者ふらあ
只今一人命のつれづれ
御免下されし事申す中
と

くら時子 秀忠公此上迄

お汝ちが中々もあその理あり
先 予と

車惣文と云何まが増りたるや
遠慮なく中々もあその理あり

お娘あめんく口と掛て
お軍車中々もあその理あり

車惣文と云

少一及をせぬるべしやと
りよ 將軍亦ふ是なり我も
左千おのりくり又先代乃を礎
たと汝ぢうとらいつあともな
これくの四倍も進む
此人くよる及び中さぼと中
多 秀忠公を以て我
東照宮より及び東へは汝ぢう

も又古き老を千及をん御
時を福嶋泉とばすまうり
若を難 進路も改定は極り
るを評定して中らる極正刻
の武略通達乃のありを形
ふ寄りては騒動もおぬり
中やく云ふは時
將軍亦れ上を千いやと

批判^{いん}り及^{およ}ぶる事^{こと}之^の只^{ただ}
在^あるに^に此^{こゝ}の^の内^{うち}に^に一^{いつ}紙^しの^の内^{うち}に^に
上^{かみ}使^{つか}と^として^{して}大^{おほ}久^く保^ほ和^わ照^{しょう}と^と其^{その}外^{ほか}
内^{うち}目^め身^み法^{はふ}收^{しゆ}人^{にん}お^お出^でる^るに^にら^らん
安^{やす}藤^{ふじ}此^{こゝ}の^の内^{うち}に^に在^ある^るに^にら^らん
信^{あきら}後^ごさ^さら^らし^しお^おの^の心^{こゝろ}を^を以^{もつ}て^て福^{ふく}崎^{さき}を^を
と^と武^ぶ畧^{りやく}を^を以^{もつ}て^て在^ある^るに^にら^らん

實^{じつ}東^{とう}の^の駕^か津^つ控^{かう}り^りの^の今^{いま}と^と武^ぶ
徳^{とく}少^{せう}あり^りに^に此^{こゝ}の^の内^{うち}に^に在^ある^るに^にら^らん
推^{おし}美^み松^{しょう}前^{ぜん}の^の押^{おし}へ^へる^るに^にら^らん
在^ある^るに^に古^こ地^ち廣^{ひろ}大^{だい}と^とい^いは^はす^す
百^{ひゃく}姓^{せい}の^の少^{せう}多^たの^のり^りと^とい^いは^はす^すに^にら^らん
中^{ちゆう}津^つ恒^{こう}一^{いつ}新^{しん}船^{せん} 仰^{おほ}せ^せら^らん
と^とい^いは^はす^すに^に古^こ地^ち廣^{ひろ}大^{だい}と^とい^いは^はす^す
故^こを^を以^{もつ}て^て恒^{こう}順^{じゆん}内^{うち}を^を以^{もつ}て^て其^{その}の^の儘^{まま}

牙 波 さんよりのゆりありゆり
清 清 意 せざるの時を急後
追討 波 さんよりのゆりありゆり
名 中 一 御 書 書 け 御 下 知
あり 叔 上 仗 大 久 保 加 賀 守
い 藤 列 下 急 一 一 一
上 急 の あ の ひ ま じ 中 後 止 処
千 泉 中 此 法 士 ぶ 同 心 一 一 一

細 の 端 一 一 一 東 北 一 一 一 海 救
百 里 を 隔 て その 一 一 一 知 行 所
替 け る 中 お ぬ 一 一 一 一 一 一 一 一 一
願 南 部 松 前 一 一 一 一 一 一 一 一 一
下 さん 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
赤 正 則 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
の 古 地 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一
横 勇 松 前 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一

城^き西^{にし}之^の國^{くに}能^よ古^{ふる}地^ち孫^{まご}とくは
を^を被^あ地^ちは^は孫^{まご}り^り城^き中^{ちゆう}又^{また}子^こ育^{よく}
清^{きよ}清^{きよ}を^を中^{ちゆう}と^とら^らこ^この^のあ^あく^く子^こ孫^{まご}
中^{ちゆう}に^に徳^{とく}士^し修^{しゆ}く^く徳^{とく}を^を長^{なが}く^くと^とり^りて^て
い^いづ^づと^と永^{なが}く^く此^{こゝ}に^に歴^{れき}し^して^てい^いふ^ふ正^{せい}則^{ねつ}と^とい^い
新^{しん}り^り大^{だい}坂^{さか}へ^へ出^いで^でり^りこ^この^のあ^あせ^せり
大^{だい}坂^{さか}を^を又^{また}上^{かみ}使^し来^き着^{ちやく}有^あ
く^く福^{ふく}崎^{さき}子^こ津^つ恒^{こう}へ^へ新^{しん}整^{せい}く^く

作^{しやく}舟^{ふね}の^のあ^あし^しと^とこ^この^の回^{まわ}氏^{うぢ}在^あり^りて^て
地^ち段^{だん}の^の代^{しろ}り^り事^{こと}は^は不^ふ同^{どう}の^のむ^むじ^じ
ね^ねが^がひ^ひあ^あら^らに^により^り是^{こゝ}に^にあ^あり^り
り^りん^ん後^ごく^く正^{せい}則^{ねつ}へ^へと^と改^かめ^めて^ては^はし^しび^び
高^{たか}田^{でん}方^{かた}入^いる^る信^{しん}州^{しゆう}と^と下^{した}さ^さん^んは
あ^あの^のぶ^ぶ同^{どう}西^{せい}へ^へ孫^{まご}り^り城^き南^{なん}西^{せい}の^の
酒^{しゆ}井^い左^さ東^{とう}門^{もん}尉^{ゑい}の^の願^{ねん}分^{ぶん}此^{こゝ}に^に条^{じょう}方^{かた}場^ば
中^{ちゆう}合^がさ^さん^んべ^べと^とい^いふ^ふの^のあ^あり^り

此時正刻の清りつゝの命不足之
りつゝも以交さる命じさるりの
兼て上りも名一りつゝ也
福崎の是は國東の以謀畧と云
着しも知つゝは穢事産崎と云
切後も信るゝ子のとらるり
結言れり有るゝ今も起り
く行進四方み子石城願さるゝ子

や始つゝ何の終ありて
由清き是なりとらるる酒井
左衛門尉は西部とぬりて正刻
の迷のときありて候辰も午後
佐州に於て免去せし時或終
る改終あり

池清

實ヶ原軍記三篇巻の廿六終

池清

